

ミライ研としての活動を開始しました。 「技術士を知ろう！ in 北海道科学大学」

1. はじめに

平成 20 年度より青年技術士交流委員会(青技交)において始めた「技術士を知ろう！」(旧：学校へ行こう！)。これまでの“試行”を“本格実施”に移行し、青技交の連携・協力を得て、今年度より新設した「技術者のミライ研究委員会」(ミライ研)にて運営等を担当することになりました。

皆様、どうぞよろしくお願いします。

ミライ研としての活動第 1 弾は、昨年より講演を行っている北海道科学大学にて実施しました。

2. 実施概要

開催日時：H29.5.18(木) 13:30～15:00

講義内容：技術士について

技術士の仕事内容と役割(講演 2 編)

土木全般の仕事紹介

対 象 者：北海道科学大学都市環境学科 計 108 名
1 年生 55 名、3 年生 28 名、4 年生 25 名

参加幹事：小澤、木本(記)、千葉、永井、平岡、仁田、寺西、源野(ミライ研 8 名)
石黒、須田、高橋、岡本(青技交 4 名)

3. 技術士について

小澤代表より、技術士資格の説明として、技術士の役割、資格取得方法、持つことのメリット等を説明したほか、社会人になってからの仕事をする上での資格取得の重要性等の説明を行いました。

自身の資格取得歴や会社での処遇等も交えた説明で、これから大学で学ぶ 1 年生はもちろん、就職を控えた 3・4 年生にも自分の進路等を考えるうえで非常に参考になったようです。



写真 1 新校舎で充実した設備、多くの学生が参加してくれた中での出前講座となりました



写真 2 冒頭の概説を行う小澤代表

4. 技術士の仕事内容と役割

(1) 技術士の仕事(寺西技術士)

具体的な仕事内容の紹介は、まず北科大(旧道工大)OBの寺西技術士から、土木(河川)系コンサルの仕事の講演を行いました。寺西技術士からの講演は昨年に続き 2 回目となりますが、昨年の内容とは大きく内容を変更し、昨年の台風災害の事例等を出しつつ河川系の仕事を概説。また、自身が経験した

河川計画・設計の仕事を紹介し、治水と環境といった“トレードオフ”の関係を、学生にもわかるように丁寧な説明を行いました。講演の最後には「学生生活を送るにあたって」と題して、特に 1 年生がこれから学生生活をする上でやっておくべきこと等を OB ならではの視点で語り掛け、学生たちの視線を集めました。



写真 3 OB として熱く語る寺西技術士(幹事)

(2) 建設会社の仕事と技術士(石黒技術士)

続いて清水建設㈱に所属する石黒技術士より、自身の担当してきた現場での仕事と、技術士を目指したきっかけなどを紹介しました。ゼネコンならではのスケールの大きい仕事で、専門的な話になりがちなところ、わかりやすい例示や時に“笑い”をはさみながらの説明。自身の経験した事例紹介では、参考書だけでは解決できないことを解決するのが技術士の仕事、と解説。土木業界の魅力が学生たちにも伝わったのでは、と思っています。



写真 4 学生に好評だった石黒技術士(青技交 幹事)

(3) 土木の仕事全般の紹介

講演最後は、筆者より土木の仕事全般を対象に、2 人の講演で紹介しきれなかった土木の仕事写真を紹介。様々な仕事があることを知ってもらい、学生たちが自分の将来を考える機会になれば、と考えて用意したのですが、まだ漠然としてしか自分の「専門」を意識できていない 1 年生、これから就職等の進路を考える 3・4 年生には参考にしていただけたようです。

5. 質疑応答

筆者の進行で参加メンバーが学生からの質問に回答する質疑応答。ここは、各プレゼン終了後、学生の皆さんにそれぞれのプレゼンターに対しての質問を記入していただき、回収、何問かを抽出して回答する形で実施しています。講演内容をずいぶん真剣に聞いてもらえたようで、紹介事例の内容にかなり踏み込んだ質問も出たほか、比較的若いメンバーも参加したことで、親近感を持っていろいろ質問をしていただけたように思います。

6. まとめ

学生からの感想には「技術士について理解が出来た」、「技術士を取得したくなった」、「これを機会にいろいろ調べてみたい」等の技術士取得の動機となるようなキーワードが多くありました。

アンケートでは、74 人中 62 人が「技術士を今回初めて知った」「名前だけは知っていた」等だったのに対し、74 人中 69 人が「将来技術士を取得したい」と回答してくれていました。同アンケートでの今回講演の「わかりやすさ」「満足度」は 5 段階評価でいずれも 4.4 と学生に高評価だったのも一因だったのでは、と考えています。

ミライ研では、より学生に近い世代の幹事が集まる青技交と連携・協力して、今後も「技術士を知ろう!」を企画・運営し、技術士の社会認知度向上、理科系教育現場の支援に向けた活動を行っていきたいと考えています。